

公共施設等の現状と 今後の対応への提言

～公共施設等総合管理計画見直しに向けての視点～

令和5年1月26日

戸田市議会 総務常任委員会

はじめに

本市では、本庁舎や福祉センターなど、多くの公共施設が1970～1980年代に建設され、建築後30年以上となる施設が全体の69%、50年以上となる施設が28%を占めており、今後の維持や大規模修繕、建て替えにかかる多額の財源確保のほか、財政負担の平準化が課題となっている。

一方で、時代の流れや市民ニーズの多様化などにより、公共施設に求められる役割は変化している。地域コミュニティを推進する拠点として、また、全国で地震、台風、集中豪雨などの災害が増加し、その被害規模も増大傾向にある中での防災拠点として、公共施設が果たす役割は非常に重要となっている。

そんな中、2017年に策定された「戸田市公共施設等総合管理計画」が前倒しで見直される予定となっている。

当委員会では、「公共施設等の現状と今後の対応について」をテーマに調査研究を行い、3つの視察を行った。

1つ目が、京都市、焼津市の地域コミュニティの拠点となる「複合施設化」。

2つ目が、草加市、清瀬市の環境に配慮され、防災機能も向上し、オープンスペースなどにより市民が親しみやすく、職員も働きやすい「新しい庁舎」。

3つ目が、ニーズの変化や施設の老朽化がみられる「市内公共施設」である。

この提言書では、これら3つの視察先から得た知見をもとに、公共施設等総合管理計画の見直しに際し、新たな視点を加えることを提案する。

提言

公共施設等総合管理計画の見直しにあたり、「財政負担の軽減と平準化、公共施設等の最適な配置の実現」という目的に、以下の3つの視点を加えるよう提案する。

提言①

「多くの人が使しやすい公共施設」を
目指して「ニーズ」の視点を

提言②

「増加する災害に備えた公共施設」を
目指して「防災」の視点を

提言③

「環境負荷に配慮した公共施設」を
目指して「SDGs」の視点を

提言①

「多くの人が使しやすい公共施設」を 目指して「ニーズ」の視点を

福祉センターなどの施設は子供や高齢者、障がい者などがサークル活動など、目的に応じて集まり交流を深める地域コミュニティの中心となる施設である。

加えて、さまざまな人が集まる複合施設などが地域にあることで、自然と多世代交流をはじめ、新たな交流やコミュニティが生み出される施設でもある。

公共施設は、多くの人が集まる地域コミュニティ推進のための施設として、また、時代により変化するニーズに対応できる施設として、施設のあり方についても検討を行い、多くの人にとって使いやすい施設を目指すことを提案する。

主な取組

- 1.時代と共に変化するニーズに対応できる大規模修繕や建て替え
- 2.人が集まる施設を目指した複合化やオープンスペース等の採用
- 3.すべての人が使いやすいユニバーサルデザインの採用

参考事例

- ①最近は重度心身障害者の利用が増えるなど、建設当時と利用ニーズが変化している戸田市立心身障害者福祉センター



- ②学校と公民館との複合化により多世代交流などの場となっている、焼津市立東益津小学校

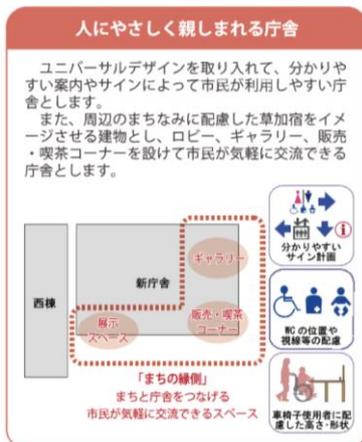


お母さんとの給食交流



高草学級(高齢者学級)交流

- ③ユニバーサルデザインや市民の交流スペースを採用するなど、「人にやさしく親しまれる庁舎」を目指す草加市役所新庁舎



提言②

「増加する災害に備えた公共施設」を 目指して「防災」の視点を

公共施設は、災害対応・復旧活動の拠点となる本庁舎をはじめ、大規模災害が発生した際の避難所になるなど、防災上も重要な施設であり、災害への備えが求められる。

また、多くの人が集まる施設として、大地震の発生時も安全であることが絶対条件である。本市では、すべての公共施設で耐震化を済ませているものの、今後も施設の老朽化が進行する中で、定期的に建物の安全性を調査し、計画的に大規模修繕や建て替えについて検討していくことが重要である。

特に、施設を建て替える場合、施設によっては10年程度の期間を要するものもあることから、その期間も踏まえた適切なタイミングで検討を開始することが必要である。

公共施設を防災上の重要施設として、定期的な健全度調査の実施による計画的な大規模修繕・建て替えと、新型コロナウイルスなどの世界的パンデミックも含め、近年増加する災害に備えた施設を目指すことを提案する。

主な取組

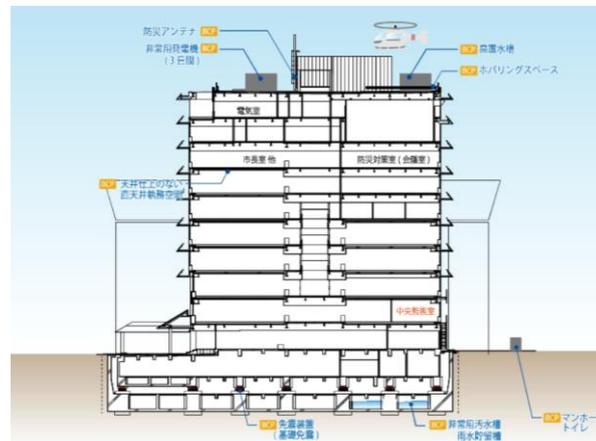
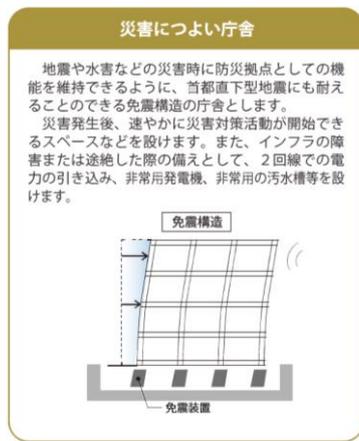
1. 定期的な健全度調査の実施
2. 大規模修繕や建て替えに要する期間を考慮した検討の開始
3. 耐震性だけでなく、避難所としての機能性の確保
4. ウィズコロナ時代に対応した感染症対策設備の導入

参考事例

①市役所本庁舎の場合、多くの自治体で完成まで10年以上を要している

自治体名	検討開始時期	完 成	要した期間
蕨市	2007年	2023年	16年
草加市	2011年	2023年	12年
川口市	2009年	2020年 (第1期工事)	11年
東京都清瀬市	2010年	2020年 (第1期工事)	10年

②災害時の電源確保を目的に2つの変電所から電源を確保するなど、さまざまな防災対策が施される草加市役所新庁舎



③3階が水害時の避難場所だが、スロープは2階までしかなくエレベーターも車いすは1台ほどしか乗れない戸田市立心身障害者福祉センター



提言③

「環境負荷に配慮した公共施設」を 目指して「SDGs」の視点を

本市では、令和3年度にスタートした「戸田市第5次総合振興計画」において、SDGsの視点を取り入れ、令和4年5月には国から「SDGs未来都市」に選定されるなど、市を挙げて「持続可能なまち」の実現を目指している。

そうした中、本庁舎をはじめ、多くの人が集まる公共施設も、多くの電力や水などの資源を使用する施設として、今後の大規模修繕や建て替えを通してSDGsの視点を取り入れることが重要である。

国を挙げて取り組んでいる「脱炭素社会」の実現に向け、公共施設が「持続可能なまち」の象徴となるよう、SDGsの視点を取り入れた施設とすることを提案する。

主な取組

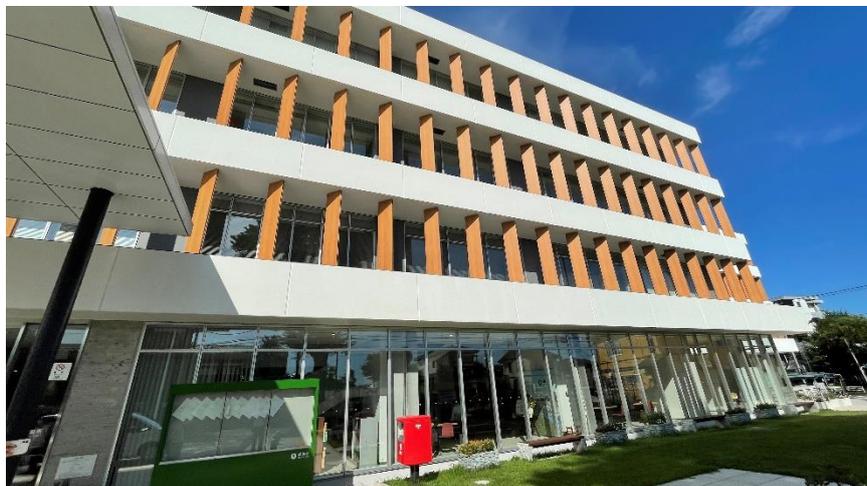
- 1.太陽光発電をはじめとする自然エネルギーの採用
- 2.高効率機器の導入による施設の省エネルギー化
- 3.雨水や井水など、資源を有効活用できる設備の採用

参考事例

①環境に配慮した新庁舎を目指し、草加市役所新庁舎に導入される さまざまな取り組み

環境配慮取組事項	取組内容
1. 建築物の熱負荷の低減	
① 建物の形状・配置	南北軸に平行な事務室の配置による熱負荷の低減
② 高断熱・高气密	高断熱外皮（断熱強化）
③ 日射遮蔽	ライトシェルフによる日射カット
2. 再生可能エネルギーの利用・変換利用	
① 自然採光	事務室における自然採光、エコポイドによるトップライトからの自然採光
② 自然通風・自然換気	エコポイド（吹抜け）を利用した事務室、共用部の重力換気
③ 地熱利用	敷地地中および、地下ピットを利用したクールチューブ
④ 太陽光発電	太陽光発電（新規20kW）+蓄電池
3. 省エネルギーシステム	
① 高効率熱源	高効率型の空調機を採用
② 送風動力の削減	変風量制御（VAV）・変流量制御（VWV）
③ 換気量制御	CO2濃度センサーによる換気量の制御
④ 空調（事務室）	職員の居住域のみを空調する床吹き出し空調とする
⑤ 高効率照明器具	新庁舎すべての照明器具にLED照明を採用 上下配光板の採用
⑥ 照明器具の制御	昼光連動調光システム（照度センサー）、昼光連動発停システム（明るさセンサー）、在館検知システム（人感センサー）、タイムスケジュール制御（中央制御）による照明制御
4. 効率的な運用	
① 計量、エネルギー管理（BEMS）	BEMSの採用
5. 資源の適正利用	
① エコマテリアル	再生骨材を利用した躯体等のエコマテリアルの利用
② オゾン層保護、地球温暖化抑制	ノンフロン吹付断熱材の利用、オゾン層破壊を伴わない冷媒の利用
③ 炭素固定化	国産材を利用した木質空間
④ 雨水利用	雑用水（トイレ洗浄水などの中水）利用
⑤ 節水型衛生器具	節水型衛生器具の採用
6. 自然環境の保全、創造	
① 雨水浸透	浸透性塗装、雨水浸透トレンチ・浸透ますの設置
② 緑化、緑の蒸散効果による外気冷却	敷地内緑化

②雨水と井水を散水やトイレの洗浄水などに活用し、水道使用量が3分の1 まで削減された東京都清瀬市役所本庁舎



おわりに

本市の公共施設は、建設から 40 年～50 年が経過する施設が多く、「時代により変化するニーズへの対応」や「災害への備え」、「年数の経過による断熱性の低下と空調設備の老朽化による環境負荷の増大」など、さまざまな課題がある。一方で、大規模修繕や建て替えには多額の財政負担が生じる。

そのため、施設の 20 年、30 年先を見据え、公共施設の在り方も含め、十分な時間の余裕をもって、市が市民や企業、NPO などの多様な主体と連携し、様々な視点を考慮して議論を進めることを望む。

最後に、当委員会の視察を受け入れてくださった、多くの自治体、関係者の方々に感謝申し上げますとともに、この提言が少しでも住民福祉の向上に役立つ事を願う。

総務常任委員会

委員長	そごう	拓也
副委員長	野澤	茂雅
委員	むとう	葉子
委員	林	冬彦
委員	石川	清明
委員	細田	昌孝

令和4年度 総務常任委員会の先進地視察から



ひとつの敷地内に学校や保育所、
高齢者施設、商業施設、消防団
施設、市の研修施設が同居する
京都御池中学校

小学校と公民館の複合化により、
共用施設が有効利用され、世代間
交流も盛んな焼津市立東益津小学校



木のぬくもりが感じられる外観、
効果的な採光と柱のない執務室、
アロマの香りと心地よいBGMなど、
開放的で明るく、居心地の良い
清瀬市役所本庁舎

